

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790900039		
法人名	一般社団法人ひまわりの家		
事業所名	認知症高齢者グループホームえすぺらんさあ		
所在地	福島県相馬市北小泉字権現前56の1		
自己評価作成日	平成27年5月29日	評価結果市町村受理日	平成27年8月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成27年7月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者ひとりひとりの希望を聞き入れ、安心と満足ができる支援をしています。昼の時間帯は、皆さんがフロアで団らんしたり、うたたねをするなど、居心地の良い雰囲気づくりに心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 1 法人は同一敷地内に障がい者、高齢者支援のため複数の福祉施設を設置しており、事業所と共同で防災訓練等を実施している。また市内に複数の介護関連事業所も展開しており、事業所相互の連携を活かして質の高いケアに努めている。
- 2 協力医療機関の往診や訪問歯科診療の受け入れにより、利用者は常に適切な医療が受けられる体制となっている。
- 3 開設時より運営推進会議には毎回行政の担当職員が出席しており、事業所と自治体の連携が良好に図られている。
- 4 管理者を中心に職員同士のコミュニケーションが円滑に図られており、全職員が一丸となって利用者本位のケアに努めている。職員の明るい笑顔と対応に利用者は穏やかで安心した生活を楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共有し実践している。 施設内に理念を掲げ、それに基づいた介護を行い、利用者の言動、行動の中に含まれた思いを汲み取れるように、心がけている。	理念は共用空間に掲げ、全職員が「利用者一人ひとりの思いを受けとめ自分らしく過ごせるよう支援すること」を共通認識のもと実践している。現在理念に地域密着型サービス事業所としての内容を加えることを考慮している。	地域密着型サービス事業所の社会的役割を認識し、事業所が地域の一員として交流していくことを理念に明記されることが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	少しではあるが交流している。 日中自宅にいる方が少ないが、近所への散歩をすることで、地域の方々との触れ合いを持てる機会を作っている。しかしながら地域の活動への参加に関しては、情報をもらうまで至っていない。	地域の敬老会や障がい者作品展への出展等で地域と交流している。ボランティアの巻き寿司づくり等受け入れおり、利用者の楽しみになっている。また、多くのボランティアの受け入れを計画しており地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	少しではあるが、理解していただいている。 開所式の際、近隣の方々へ案内状を配布し、何名か出席していただいたり、外出をすることで、地域の方々に、職員の利用者に寄り添った介護方法を見て頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	ほぼ出来ている。 二か月に一度のペースで開催することが出来ており、事業内容の説明を行っている。地域からの声を聞き出せるように、会議を進めている。	運営推進会議は定期的開催しており、内容は事業所の状況や行事報告等となっており、委員からの意見や提案は事業所の運営やサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ほぼ出来ている。 当施設の管理者と担当の市役所職員も、今年度より配属となったため、連絡を密にし、運営推進会議などでの意見交換も以前より多くなっている。	設立時より行政の担当職員は運営推進会議に参加しており、サービスの取り組み状況や利用者の生活状況等を報告し、アドバイスをもらい協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組みは出来ている。 施設の契約書、重要事項説明書等に記載しており、各職員にも配布し理解をしている。玄関の施錠に関しては、夜間帯のみ、外部からの侵入等を防ぐため、施錠を行っている。	全職員が身体拘束の弊害を理解しており、拘束のないケアに努めている。また、「言葉による拘束」についても職員同士で注意あっている。日中玄関の施錠は無く、職員の見守りで対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ほぼ出来ている。 全体会議の際、介護方法が虐待や拘束にあたらないのか話し合い、全職員で注意を払い防止に努めている。今後法律に関しての勉強会ができるようにしていきたい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一部出来ている。 すでに、入所後に成年後見人制度の説明を行い、活用している利用者がいる。今後も日常生活自立支援事業などを学ぶ機会を設け個々の必要性を話し合い、活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明責任は果たしている。 文書や、訪問時に改めて説明し、承諾を頂く形式を取っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ほぼ出来ている。 運営推進会議には、利用者の家族代表が毎回出席され、意見を聞いている。その他の御家族等は、来所した際に話し合いを行い、対応可能ならば取り入れている。	家族の面会時や状況報告の折に家族の意見や要望を聞き取り、運営に反映させている。家族の意見等は「週1のミーティング」や「月例職員会議」で話し合い、日常のサービスや事業所の運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に意見等を聞き入れ、検討している。 週一回の全体ミーティングや、通常の仕事の中で意見を聞き入れ、より良い支援が出来るようにしている。	オープンで話しやすい職場環境であり、常に職員の意見や提言を聞く体制となっている。出された意見等は随時話し合い、事業所運営や日常のケアに反映させている。ケアの改善のみでなく事業所の備品(スチーマー等の設置)にも職員の提言を取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ほぼ達成している。 介護士として他のスタッフと共に支援しながら、常にスタッフ一人一人の意見にも耳を傾け働きやすい職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	まだまだ不十分である。 スタッフのケア技術は把握しているが、研修の機会は、必要最小限にとどめていた。今後、研修の機会を増やし資質の向上に努めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	まだまだ不十分である。 今年度からグループホーム協議会に加入し、今後は同業者と交流を深め、勉強会に積極的に参加し意見交換をしていくことで、サービスの質の向上に取り組んでいきたい。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ほぼ出来ている。 アセスメントする際や、入所してすぐの段階では、不安な状態にあるため、特に本人に寄り添い些細な事でも受け入れ、安心出来るように対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来ている。 入所前、入所してすぐは本人だけではなく、ご家族からも不安や要望が多く聞かれ、要望に沿った支援ができるように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ほぼ出来ている。 介護計画書の内容だけではなく、何がその人らしく過ごせるのか、相談しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ほぼ出来ている。 本人の出来ること、出来ていたことを把握し、日常生活上のアクティビティに参加している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ほぼ出来ている。 施設で生活することにより、家族にも安心していただき、訪問しやすい関係づくりに心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ほぼ出来ている。 親戚や友人に会えるよう、来所しやすい雰囲気づくりに心掛け、電話などのやり取りも要望があれば対応している。	墓参りや馴染みの美容院等の利用は家族同伴を基本としているが、状況によっては職員が送迎している。また、訪問理容も受け入れており、入居後新たな馴染みの関係を築いている。友人や親せきの面会も多く、これまでの関係が継続できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ほぼ出来ている。 毎日のレクリエーションなどに、参加することにより仲間意識を育み、孤立することなく協力しあうことが出来るように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	昨年の6月に開所し日が浅いため、契約終了者はいない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ほぼ出来ている。 本人と家族の意向を聞き入れ、心身の状態を読み取り希望に沿った支援が出来るようにしている。	職員は利用者の個性や心身の状態に合わせた支援に努めており、日々の支援の中で利用者の思いや意向を把握している。思いを表せない利用者には表情やしぐさから汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来ている。 アセスメント表や、日々の本人や家族との関わりの中で、その方の生活歴、人間性を把握することに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ている。 起床時から心身の状態を観察し、聞き取りを行いスタッフ全員で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ほぼ出来ている。 職員、本人、家族などと話し合い、現状に即した介護計画書を作成している。	利用者及び家族の希望と利用者の身体状況を踏まえ、利用者の状態に即した介護計画を作成している。開設後一年経過したところであり、全職員が各利用者の状態に添った介護ができるよう介護計画の様式を改め、全職員が統一した支援に向けて実践中である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ほぼ出来ている。 日々のケアの中で、気づきを重点に置き、個別の介護記録に記入し、共有しながらより良い支援ができるように計画書の見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ほぼ出来ている。 本人や家族のニーズに、出来る範囲内でその都度臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一部出来ている。 友人との付き合いや加入している会合への参加など入所以前の習慣を継続し、本人の思いに沿った暮らしができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来ている。 入所後もかかりつけ医を受診され、受診の際はスタッフが同行し医師とのやり取りも行い関係を築いている。	受診には職員が対応しており、利用者の情報提供をして医療機関と連携を密にしている。また、協力医療機関の往診や訪問歯科も受け入れている。受診後は受診記録を活用し家族と情報の共有をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	出来ている。 看護職員も常勤しており、情報を共有し特変があれば相談、適切な受診ができる体制にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来ている。 協力医療機関と連携を図り、適切な処置を行って頂いている。入院中の面会時に、経過や退院の日時の相談などを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	一部出来ている。 現在終末期の利用者がおり、職員全員で情報を共有しながら取り組んでいる。今後、他の家族に対しても看取りに関する指針や誓約書等の説明を行っていく予定である。	「看取り指針」を作成しており、利用開始時に家族に説明し理解を得ている。重度化した場合には家族、医師、職員等で十分話し合い家族の意向に添って柔軟に対応することとしている。事業所での看取り体制も築いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほぼ出来ている。 従来スタッフに関しては救急救命を受講しているが、新人の職員に関しては今後受講し、実践力を身に付ける予定である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	一部出来ている。 同敷地内の施設と合同で、消防署指導の下、避難訓練を行い避難経路等を把握している。今後、地域の協力を得られるような関係作りを築いていきたい。	隣接する関連施設と合同で年2回消防署指導のもと総合防災訓練を実施している。事業所独自の避難訓練等は年間計画を立て、実践中である。非常用の懐中電灯・水用パック・マスク・ラジオ・電池等を備えている。	災害時に全職員が利用者を安全適切に誘導出来るよう、あらゆる場面を想定した避難訓練を数多く実施され、その記録を作成されることが望まれる。また、事業所としてあらゆる災害を想定した対応についても検討されたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ほぼ出来ている。 利用者に対して敬意をもって対応し、利用者本人が決定できるような言葉かけに心がけている。	利用者への言葉かけには十分注意して支援しており、トイレや入浴の誘導には利用者の気持ちを大切にさりげない声かけを工夫して誘導している。利用者の個人情報保護については、施錠キャビネットに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ほぼ出来ている。 日常の支援の中で信頼が築けるように寄り添い気持ちの表出が出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ほぼ出来ている。 利用者の趣味嗜好を把握し、要望があればなるべく対応できるようにしている。個々の過ごし方を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ほぼ出来ている。 着衣介助時等、本人の意見を聞きながら行い、清潔感にも気を付けている。希望者には、美容室への送迎も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	ほぼ出来ている。 利用者の希望を聞きながら献立を考えたり、ともに食事の準備や後片付けをするなど、可能な範囲で行っている。ともに食事を摂りながら、会話を交えて食事を楽しめるように支援している。	季節感のあるメニューを取り入れ、食事は職員とともに会話しながら、ゆっくり時間をかけて楽しんでいる。食材の買い出しには利用者と共に出かけ、食への関心を大事にしている。利用者の状態によっては刻み食やおかゆなどで対応している。節分・ひな祭り等の行事食も多く実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ほぼ出来ている。 食事、水分の摂取量を把握し、健康維持に心がけ、食事形態や内容などひとりひとりに合わせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ほぼ出来ている。 介助が必要な方は、毎食後行い、それ以外の方には、時々声掛けをし口腔状態を把握するようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一部出来ている。 排泄チェック表を基にパターンや排泄量を把握し、自尊心を傷つけない声掛けや出来ない部分の介助をするなど、個々の状態に合わせた支援を行っている。	排泄チェック表を利用し、全職員が利用者の仕草や時間を読み取るように努め、自然排泄の支援をしている。オムツ使用で入所した利用者も適切な誘導により綿パンツに改善された例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来ている。 水分量の把握、便秘予防の食事や手作りヨーグルトを提供する、体操や散歩等、個々の意思を尊重しながら、予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ほぼ出来ている。 入浴の時間帯などは決まっているが、入らないは本人の意思を尊重している。	利用者の希望により入浴できる体制となっている。入浴拒否者には利用者の気分転換を図りながら誘導している。体調により入浴できない利用者には足湯や清拭等に対応している。ゆず湯等を利用し季節風呂も実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来ている。 個々の習慣や体調に合わせた休息の取り方、就寝前及び就寝中の安静に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ほぼ出来ている。 既存の服薬状況、変更となった際の作用、副作用、用法について全職員が周知しその後の体調の変化など、要観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ほぼ出来ている。 個々の趣味や嗜好を把握し、なるべく継続して出来るように支援することで、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ほぼ出来ている。 散歩や外出など日常的に行っているが、本人の希望を家族や親戚などに伝えて協力を得るなどの支援している。	花見・紅葉狩り・道の駅探索などドライブで季節を楽しむ外出支援をしている。近くのスーパーへの買い物や公園などに車椅子利用の利用者も一緒に出かけている。好天時には事業所周辺の散歩を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来ている。 入所以前のように、必要な買い物ができるように支援しているが、お金の管理ができる方は、本人が所持し、その他は、小遣い帳にて管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来ている。 本人からの希望があれば電話を掛けたり、お礼の電話をかけ、家族と会話ができるように取り計らうなどの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほぼ出来ている。 常に明るさや室温の調整を行っているが、利用者の体感にも合わせて、調節している。季節の飾り物を作り壁に飾ったり、季節の花を飾るなど殺風景にならぬように工夫している。	共用空間は天井が高く天窓となっており、自然の風が取り入れられ、居心地の良い環境となっている。木製の柱や梁のある広い共用空間にはソファ、テーブル、椅子等が配置され、利用者が思い思いの場所で自由に過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出来ている。 共用スペースでは、3テーブル用意され、各々が好きな場所で、好きな方と過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	出来ている。 入所の際、以前から使用している馴染みの物を持ち込み、配置に関しても本人の意見を尊重している。	居室は換気扇のみの設置となっており、利用者は使い慣れたベッド・イス・簡易筆筒・扇風機等を自由に持ち込み、その人らしい居室となっている。和室仕様の利用も可能である。建物全体がフラット床となっており、安全が確保されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ほぼ出来ている。 全てバリアフリーとなっており、どこからでも職員の見守りが出来るワンフロア造りとなっている。そのため必要最小限の介助をし、安心して自立した生活が送れるように工夫している。		